

紙パルプ事典

<改訂第6版>

紙パルプ技術協会編

紙パルプ事典 改訂第6版の序文

随分昔の話になりますが、私が製紙会社に入社した1973年は、日本円とアメリカドルの通貨レートが固定相場制から変動相場制に移行し、その後、長期に渡る円高の始まりとなりました。第四次中東戦争が勃発して原油価格が高騰し、トイレトーパー買占め騒動が起こるなど様々な出来事があり、それまで高度成長を続けていた日本は大きな時代の転機を迎えていました。その頃、北海道の製紙工場では社運を賭けた建設工事が始まっていました。クラフトパルプ連続蒸解釜、臭気燃焼、ストリップング、高濃度酸素漂白、酸素法活性汚泥、黒液クロスリカバリー、サーモメカニカルパルプ、大型ツインワイヤー抄紙機などの新しい設備が次々と導入されつつありました。フローテーターのパイロット装置を使った脱墨パルプの工場実験も計画されていました。私は入社して直ぐにその製紙工場へ配属され、短期間の研修を経て仕事に就きました。人々は親切で現場は活気に溢れ、初めて耳にする専門用語の洪水に圧倒されました。丁度、その年に「紙パルプ事典」第3版が発行されたのは幸運でした。早速、買い求め、少しずつ専門用語を調べながら仕事を覚えていったことを思い出します。英語でも日本語でも引ける便利な事典でした。英和辞典や理化学辞典にも載っていない専門用語が、「紙パルプ事典」にはきちんと記載されていて結構重宝して使いました。

辞典とは、言葉や物事、漢字などを集め、その品詞、意味、語源、用例、派生語等を解説した書籍です。「辞書」という単語は、主に言葉について書かれた辞典に使われます。文字について書かれた辞典には「字典」、事物について書かれた辞典には「事典」という表記を用います。「紙パルプ事典」は、紙パルプの科学と技術について書かれた「事典」です。「事典」の編纂に纏わる苦心談というと「解体新書」を思い浮かべる方も多いのではないでしょうか？ 江戸時代の日本では、蘭方医の杉田玄白と前野良沢が医学書「ターヘルアナトミア」の翻訳に取り組みました。オランダ語を訳するのに十分な語彙も辞書もなく、暗号解説ともいえる方法により、「解体新書」を著すには大変な苦勞があったに違いありません。それに比べると多様な専門分野の「事典」が容易に入手できる現代に生きる私たちは幸せです。「紙パルプ事典」は1964年に発行されてから幾度か改定を重ねてきました。1989年に第五版を世に送り出してから、25年を経て2014年に改訂第6版の発行を迎えました。

この期間に紙パルプ産業においても幾つかの重要な技術革新がありました。環境対策として、クラフトパルプ漂白設備は塩素ガスを使用しない無塩素漂白シーケンスに切り替わりました。オゾン漂白を組み入れた工場では、排水中に含まれる有機塩素化合物が激減しました。様々なクラフトパルプ修正蒸解法が開発されました。その中からコンピューターシミュレーションを用いて、蒸解釜の形状やチップの材種に適した蒸解法を選択し、歩留まりとパルプ強度を向上させました。ウェットエンド科学が進歩しました。製紙工場の敷地内で製造した軽質炭酸カルシウムを化学パルプだけでなく、機械パルプと脱墨パルプにも高配合する処方を開発し、高白色度、高不透明度の新聞用紙と印刷用紙を生産できる中性抄紙技術を確立しました。米国西海岸にある北米最大の新聞用紙工場では、チップを前処理して機械パルプの到達白色度を上げることに成功しました。電子メディアの普及により新聞用紙需要の減少に苦しむ他社に先行して、高白色度で軽くて嵩高な中質書籍用紙を上市し、ベストセラーに次々と採用されて工場はフル操業を続けています。

「紙パルプ事典」改訂第6版の編纂が最終段階に入った2013年は、小説「舟を編む」がベストセラーになり、若手人気スターが主演して映画化された年でもありました。出版社で辞書作りに励む人々は、ドラマの中でこう語っています。「辞書は、言葉の海を渡る舟だ。ひとは辞書という舟に乗り、暗い海面に浮かび上がる小さな光を集める。もっともふさわしい言葉で、正確に思いを誰かに届けるために。もし、辞書がなかったら、俺たちは茫漠とした大海原をまえにたたずむほかないだろう。俺たちは舟を編んだ。太古から未来へと綿々とつながるひとの魂を乗せ、豊穡なる言葉の大海をゆく舟を」。多くの方々のご協力により編まれた「紙パルプ事典」改訂第6版が、紙パルプの科学と技術の海を渡る舟として皆様に活用して戴ければ幸いです。

平成26年6月

紙パルプ技術協会
専務理事 宮西 孝則

平成 26 年 1 月 9 日

改訂第 6 版の序

紙パルプ事典は昭和 39 年 12 月に第 1 版を発行して以来およそ 50 年間経過し、その間数度の改訂を経て、前回平成元年 9 月に改訂第 5 版を発行している。今回の事典編集は、それからおよそ四半世紀を経過しての見直し作業であり、また前回改訂第 5 版の発行から今回改訂第 6 版の発行に至るまでに 25 年を費やしたことは、紙産業が社会背景激変の影響を受けつつその業態を進化させ続けてきたことなどが窺^{うか}がえる。

さて、今回改訂第 6 版を編集するにあたっての特徴及び留意した点としては、

- (1)新語は TAPPI「Dictionary of Paper 5th Edition」を参考にした。
- (2)従来、英文表記・アルファベット順であった見出し語を基本的に和文表記・あいうえお順とした。但し、慣例的に使用されている表記が英文やカタカナである場合は、そのまま使用するものとする。
- (3)紙業界における技術進歩に加えて業界を取り巻く環境変化や周囲技術の進歩、更には他業界との相溶性及び用語の変遷に配慮対応すべく、新語彙を大幅に追加する。
- (4)旧語に関する説明文の誤り訂正や説明内容の不備補足及び旧語中の不要語の削除を実施する。
- (5)巻末に、和文見出し英文見出しの索引を配置し、従来用語に慣れた者にも引き易く配慮した。
- (6)事典のサイズについては、語彙の増加などに対応し B5 版とした。
- (7)見やすくするために付表の体裁を大幅変更し付表中の記載文は基本的に JIS の用語に統一する。但し、慣用的に広く使用されているものは残している。
- (8)同意語、参照語の記載に関しての表記は第 5 版になった。和文見出しに対応すべく、和単語・和文記載とした。
- (9)付表を見直し、海外の紙パルプ関係団体・研究機関等一覧表、著名機械設置メーカー・リストを止め、新たに国内の紙パルプ関係機関一覧表と単位換算表を加えた。

等々を念頭に実施した。

この結果、在来語約 6200 に対し、約 2300 の新語が追加され、今回の収録語は約 8500 語と大幅に増加した。

内容については旧説明文の改訂に加え新語の大量追加により事典の対象域・取扱域の拡大が図れ、充実度を飛躍的に増すことができた。更に、見出し文を和文字化することで業界の専門用語に初めて接する方も容易に扱うことができ、巻末に英文索引を設けることにより従来からのユーザーにも扱い易い事典となったと思量するものである。

今回の事典編集に際しては、新語の選定から説明文の作成、旧語・説明文の訂正や何段階にも渡る校正作業に至るまでの極めて負荷の高い作業を出版委員会各委員及び事典作業部会統括担当者を中心とする関係各社の有識者各位により実施して頂いた。また編集実施に当っては各位慎重に作業を進めて頂き、出版委員会での最終校正を経て、第 6 版出版に至ったことに改めて感謝申し上げます。

一方、今後、本事典を利用していく中で、必要語の洩れや選択の適正性、また新旧語に対する説明文等について不備な箇所の指摘などがなされてくるであろうことも想像に難くない。この点については利用者各位のご教示を頂き、将来更に改訂改良を重ねることにより、より優れた事典として発展し続けることを願うものである。

なお、事典出版にあたっては、株式会社チューエツ様のご厚意を頂き、紙パルプ技術協会前専務理事豊福邦隆、現専務理事宮西孝則氏に編集遂行のご高配を受け、委員会の開催、審議記録の取りまとめ、編集事務に関しては事務局の伊澤直美、富田宗一両氏には特にお骨折り頂いたことを報告させて頂きたい。

平成 26 年 3 月

委員長 野中秀樹